

令和5年

新年賀詞交換会

1月12日、牛久運動公園武道館で3年ぶりに新年賀詞交換会が開催され、229人の参加者が牛久市のさらなる飛躍、発展を祈りました。ここでは、主催者代表の根本洋治市長のあいさつを紹介します。

市長あいさつ(要旨)

明けましておめでとうございます。本年もよろしく願っています。3年ぶりの賀詞交換会を開催することができました。

昨年からさまざまなイベントも開催でき、年が明けて出初式、二十歳のつどい、シティマラソンも開催し、コロナ禍においても少しずつ明るい兆しが見えてきているように感じます。

◆市内各施設の整備

牛久シャトーは日本遺産の認定を受けてさまざまな取り組みをしています。エスカード牛久ビルについても、駅前ロータリーの改善やペDESTリアンデッキに屋根を設置するなどして周辺環境を整備してきました。また、2月1日からひたち野リフレ2階に市民窓口がオープンし、ますます便利になります。これからも多くの方々と協力しながら、今まで以上に牛久市の良い景色をみることができると確信しています。

◆スポーツによるまちづくり

昨年のサッカーワールドカップでは日本の活躍に感動し、3月に開催されるワールド・ベースボール・クラシックもとても楽しみです。スポーツや文化活動は、私たちにとって大きな力となり、気持ちとして支えられる原動力だと思います。

牛久市では、サッカー、バスケットボール、野球のプロスポーツチームと協定を結んでおり、市民のスポーツ機会の充実や子どもの体力向上など、スポーツによる元気なまちづくりに向けて取り組みをはじめています。

◆人口増加に向けての宅地開発

牛久市でも人口減少の傾向が少しずつ見えてきているため、ひたち野うしく中学校に隣接する東猫穴町地内で、人口増加に資する宅地開発の取り組みを進めています。これまでの茨城県知事への要望活動などを通じてようやく開発の見通しがつき、昨年地元の皆さんによる土地画整理事業における準備組合が設立され、準備組合と事業協力者の間で基本協定を締結しました。この宅地開発では300世帯、約1000人の人口増加を見込んでおり、牛久市では市街化区域への編入、造成工事に向けた取り組みを支援しています。市内には常磐線の駅が2つあり、国道6号牛久土浦バイパスなどの道路ネットワークも整備され利便性が良く、水害もなく暮らしやすい環境にあります。これらの利点をもっと強調して、すばらしい地域資源を最大限活かして、これからの牛久市をつくってまいりたいと思います。結びに、皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げまして、新年祝賀のあいさつとさせていただきます。

